

研修会報告

「貿易・政治・安全保障」 ”Trade, Policies, Security”

講演者：アイラ・シャピロ氏(前全米日米協会連合会会長・元米国通商代表部大使（日本・カナダ担当）)

デビッド・シアー氏(全米日米協会連合会会長・元国防総省次官補（アジア太平洋安全保障担当）)

研修担当理事 久野哲郎



10月16日、経団連USAの会議室をお借りして、前全米日米協会連合会会長・元米国通商代表部大使（日本・カナダ担当）のIra Shapiro氏、また全米日米協会連合会会長を引き継がれた元国防総省次官補（アジア太平洋安全保障担当）のDavid B. Shear氏をお招きして、午後12時から1時間半にわたり、Trade, Policies and Securityをテーマに研修会を開催しました。30名を超える出席者により、双

方向の活発な質疑が行われました。

今回は、先ず冒頭、Kelley President からNAJAS(National Association of Japan-America Societies):全米日米協会連合会 の活動についての概要説明がありました。NAJASは日米に関するプログラム・サービス・情報を北米に点在する日米協会を通して提供することで、日本とアメリカの人々の協力と理解をよりいっそう深めていくことをミッションとする非営利・非党派の団体で、具体的には、Kelley氏より、日米関係に関するスピーカを各地域に存在する日米協会に紹介したり、日本の経済広報センターと連携した活動を実施する等、日米間の草の根交流に注力している、といった説明がありました。

次いでShapiro氏から、1)通商政策 2)アメリカの政治状況について説明がありました。1)貿易・通商政策については、保護主義的な動きは今に始まった話ではないが、現政権で特徴的なのは、「行政府が自由貿易を標榜し、議会がタフなポジションをとる」という今までの図式と逆になっていることが興味深い点とのこと。今後の展開への予想は難しいが、NAFTA、対中通商問題がホットイシューとのこと。特に中国は、経済的発展が民主化を促す、といった期待とは真逆の事態となっており、一方、アメリカは既に中国に大きな投資をしてしまっている、話が難しくなっている、との解説がありました。また、日本に対しては2国間FTA締結を迫ってくるだろう、との見通しの披歴がありました。

2)アメリカの政治状況については、オバマ政権の頃から大統領と議会の協力が円滑に進まなくなっており、本来党派性を越えた取組みが必要な状況下にも関わらず、非伝統的で不

慣れな大統領、合意形成の難しい議会といった手詰まり状況が今後もしばらく続く、との見通しが示されました。



この後、Shear 氏からは日米安全保障関係に関する説明がありました。安全保障環境における不確実性要素として、先ず第一が中国、第二に北朝鮮、そして第三がアメリカの対アジア政策、特に対中国政策が明確に示されていないこと、といった不確実性についての説明がありました。この状況下求められるのは、国内外でのバランスのとれたアプローチであり、日米豪・日米印共同で空白のない安

全保障環境を創出していくことだが、ここでも「日米」の協力がコアとなる、とのこと。こうした協力関係のベースになるのは、何と云っても日米の個人間の人と人との信頼関係である、ということを強調していました。

今回の研修にあたり、会場をご提供頂いた経団連 U.S.A.様に、この場を借りて御礼申し上げます。